

NRIだより

業績ハイライト	1
数字で見るNRI	2
セグメント別およびサービス別の概況	3
トピックス	4
株主の皆様へのアンケートより	7
会社データ	8

業績ハイライト

Financial Highlights

	2013年3月期 第3四半期累計	2014年3月期 第3四半期累計	増減額	前年同期比
売上高	2,603億円	2,794億円	+191億円	+7.3%
営業利益	312億円	360億円	+47億円	+15.3%
四半期純利益	204億円	241億円	+36億円	+17.7%

第3四半期決算の ポイント

- ▶ 全てのセグメントで増収
- ▶ NISA (少額投資非課税制度) に対応した共同利用型サービスの提供を開始
- ▶ パソコン・サーバー・ネットワーク等の刷新案件が増加

国内景気は緩やかに回復し、企業の情報システムへの投資意欲も高まりつつあります。このような環境の中、NRIグループは中長期的な成長を実現するため、強みをさらに伸ばしつつ新しい分野での成長施策を推し進めています。

本年1月からNISAが始まり、これに対応した共同利用型サービスの提供を開始しました。法制度改正に今後も着実に対応し、共同利用型サービスの一層の事業拡大に努めていきます。

過去の景気低迷期に、顧客の多くは情報システム投資を抑制してきたため、システムの老朽化の問題が顕在化しています。急進展する技術への対応も含め、情報システムを刷新するニーズが高まっており、対応を進めています。

その結果、2014年3月期第3四半期累計の売上高は、全てのセグメントで前年同期を上回り、2,794億円(前年同期比7.3%増)となりました。営業利益は360億円(同15.3%増)、四半期純利益は241億円(同17.7%増)となりました。

2014年3月期業績予想の修正について (2014年1月30日発表)

顧客の情報システム投資の堅調な拡大を受けて、足元の受注状況も好調であり、金融ITソリューションや産業ITソリューションを中心に想定を上回るペースで伸びていることから、通期業績予想を前回予想(2013年7月25日発表)から上方修正しました。

また、配当方針について、株主還元の上をを図るため、連結配当性向の目安を30%から35%に引き上げました。これにともない、今期末の配当金予想を1株当たり26円から30円に修正し、年間配当金は56円となります。

	2014年3月期通期 (単位: 億円)		
	前回予想	今回予想	前回予想差
売上高	3,750	3,800	+50
営業利益	490	500	+10
経常利益	515	530	+15
当期純利益	320	320	—
1株当たり年間配当金	52円	56円	+4円

数字で見るNRI

2014年3月期第3四半期 (2013年4月1日～12月31日)

NRI at a Glance

売上高

(単位：億円)

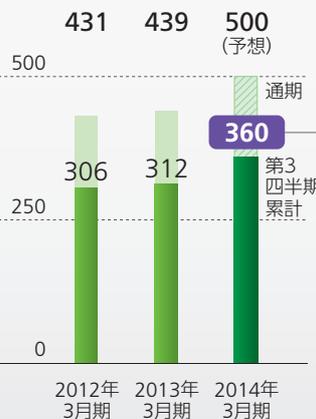


2,794億円
前年同期比+7.3%

売上高は、コンサルティング、証券や銀行、資産運用会社向け金融ITソリューション、製造・サービス業等向け産業ITソリューション、IT基盤サービスを中心に、全てのセグメントで増収となりました。

営業利益

(単位：億円)



360億円
前年同期比+15.3%

増収による稼働率の向上や、株式市場の活況を受けた証券業向けを中心とした運用サービスの増加、プロジェクト管理の強化による収益性向上などにより、営業利益は増益となりました。

経常利益

(単位：億円)

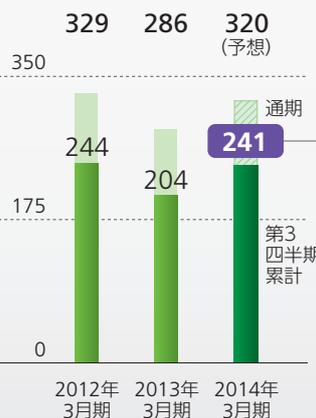


385億円
前年同期比+17.6%

営業増益に加え、受取配当金や持分法投資利益などの営業外損益も増益となりました。

四半期(当期)純利益

(単位：億円)

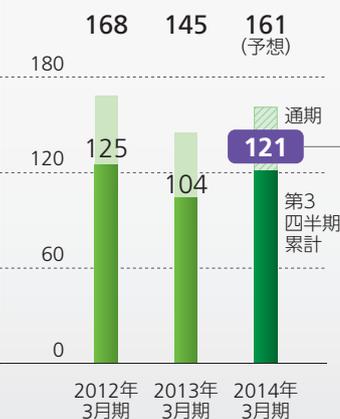


241億円
前年同期比+17.7%

四半期純利益は、前年同期比17.7%の増益となりました。

1株当たり四半期(当期)純利益

(単位：円)

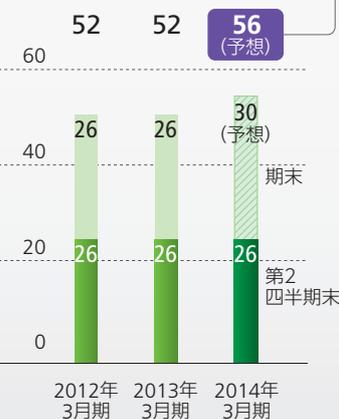


121円
前年同期比+17円

1株当たり四半期純利益は、前年同期に比べ17円増加し、121円となりました。

1株当たり配当金

(単位：円)



56円 (予想)
前期比 +4円

2014年3月期の年間配当金予想を56円(うち期末配当30円)に上方修正しました。2013年7月25日に公表した予想と比べ4円の増加となります。

(注) 1. 記載金額は、億円未満(1株当たり四半期(当期)純利益・配当金は円未満)を切捨てて表示しております。

2. 2014年3月期通期予想は、2014年1月30日に発表したものです。業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。したがって、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により、実際の売上高、利益および配当金は当該予想と異なる結果となる可能性があります。

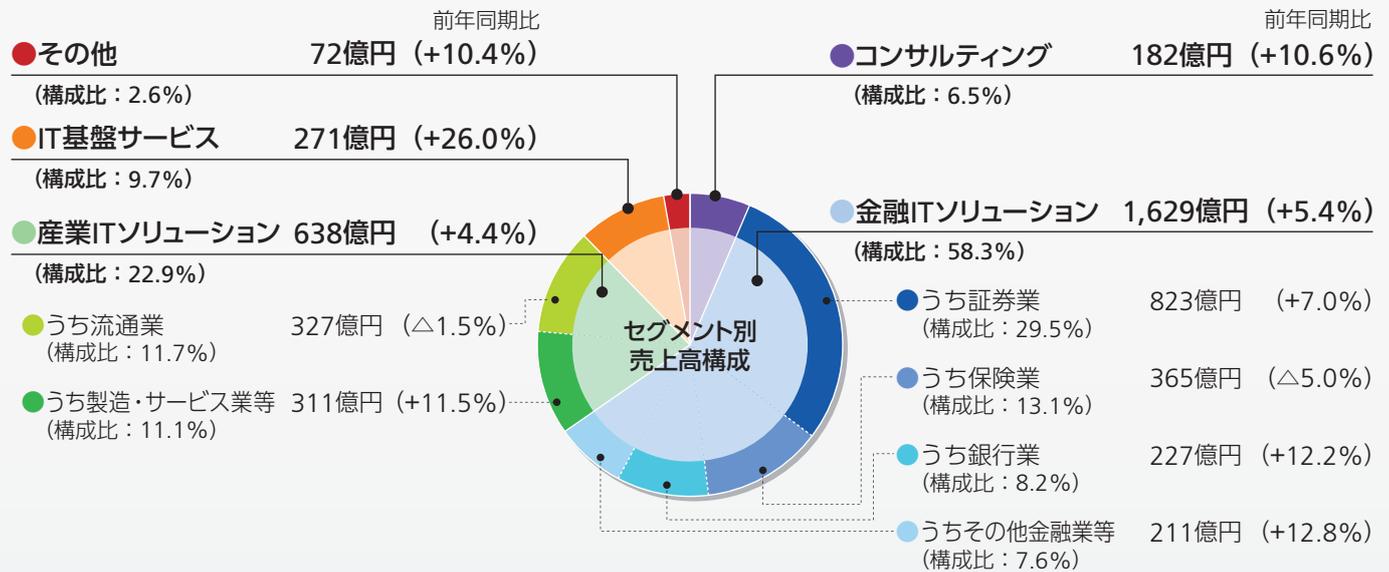
セグメント別およびサービス別の概況

Summary by Segment and Service

2014年 Vol.1

2014年3月期 第3四半期

セグメント別売上高



コンサルティングは、企業収益の改善を受け業務コンサルティングや、政策の立案・実行を支援する公共向けコンサルティングが増加し、売上高は182億円と前年同期比10.6%の増収となりました。

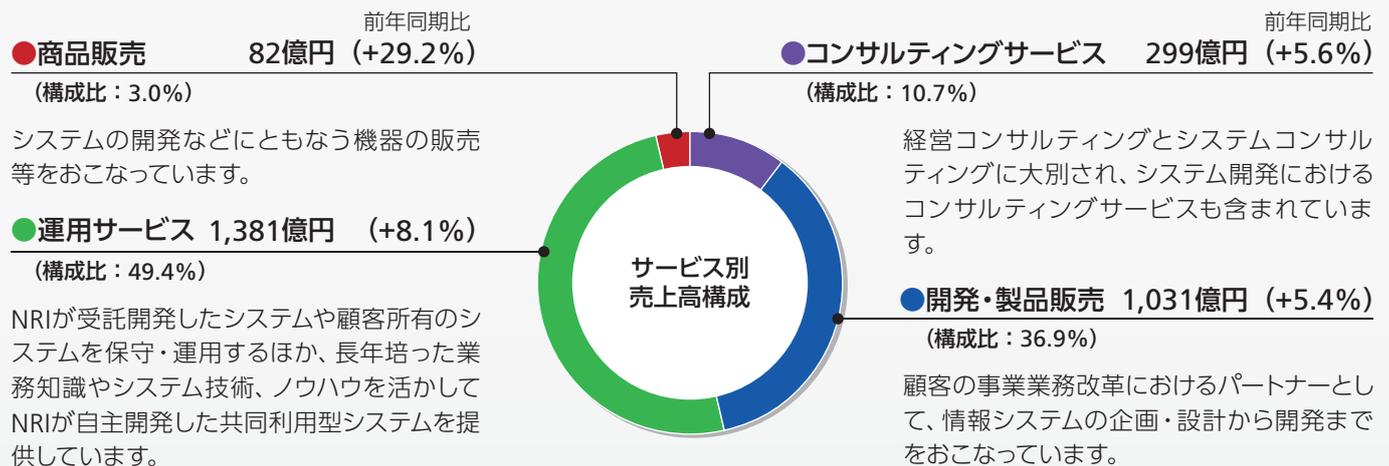
金融ITソリューションは、銀行や資産運用会社向け開発・製品販売や、株式市場の活況を受けて証券業向け運用サービスが増加したものの、証券業、保険業向け開発・製品販売が減少

し、売上高1,629億円と前年同期比5.4%の増収となりました。

産業ITソリューションは、製造・サービス業等、流通業向け開発・製品販売を中心に増加し、売上高638億円と前年同期比4.4%の増収となりました。

IT基盤サービスは、IT基盤構築案件において、開発・製品販売が増加し、売上高271億円と前年同期比26.0%の増収となりました。

サービス別売上高



システムの開発などにもなう機器の販売等をおこなっています。

NRIが受託開発したシステムや顧客所有のシステムを保守・運用するほか、長年培った業務知識やシステム技術、ノウハウを活かしてNRIが自主開発した共同利用型システムを提供しています。

コンサルティングサービスでは、業務コンサルティングや公共向けコンサルティングが増加し、売上高は299億円と前年同期比5.6%の増収となりました。

開発・製品販売では、証券会社や資産運用会社向けのNISA対応をはじめとする開発案件や、製造・サービス業等向けに加え、IT基盤構築案件で増加する一方、前期の証券主要顧客向けSTAR導入プロジェクトがピークだったことの影響もあり、売

経営コンサルティングとシステムコンサルティングに大別され、システム開発におけるコンサルティングサービスも含まれていません。

顧客の事業業務改革におけるパートナーとして、情報システムの企画・設計から開発までをおこなっています。

売上高は1,031億円と前年同期比5.4%の増収となりました。

運用サービスでは、証券業向け共同利用型サービスの利用社数の増加や株式市場の活況を受けて、売上高は1,381億円と前年同期比8.1%の増収となりました。

商品販売では、IT基盤構築案件の増加にもなう機器販売が寄与し、売上高は82億円と前年同期比29.2%の増収となりました。

(注) 記載金額は、億円未満を切捨てて表示しております。

トピックス

Topics

NRI FT IndiaがモンゴルのGII社、インドのOmnesys社と提携

～3社でモンゴルの証券会社向けに共同利用型サービスを提供～ (2013年11月1日)

NRIのグループ会社であるNRI FT India[※]は、モンゴルで金融ITサービスを提供するGII[※]、およびインドの証券業界向けソフトウェア開発で実績のあるOmnesys[※]との間で、モンゴルにおける証券ITサービスの提供に関して業務提携しました。2013年10月より、モンゴルの現地証券会社向けに、取引の注文受付から決済までを一貫してサポートする共同利用型サービスを開始しました。

第一号ユーザとして、モンゴルの証券業界最大手の一角であるRescap Securities, LLC (以下「Rescap証券」)に対して、サービスの提供を開始しました。これにより、Rescap証券は、注文から決済までの状況をリアルタイムで閲覧できるようになるなど、同国で最先端のサービスを提供できるようになりました。

NRIグループはこれからも、モンゴルのみならず、新興国における証券会社向けサービスの提供や、その運用を通じて、各国の資本市場インフラの整備や人材育成を推進していきます。

※NRI FT India

現地法人名	Nomura Research Institute Financial Technologies India Pvt. Ltd.
日本語名称	ノムラ・リサーチ・インスティテュート・フィナンシャル・テクノロジーズ・インディア
所在地	インド コルカタ市
主な事業内容	ソフトウェア開発、ITサービス

※GII

現地法人名	Global Investment Initiative, LLC
日本語名称	グローバル・インベストメント・イニシアティブ
所在地	モンゴル ウランバートル市
主な事業内容	金融ITサービス 等

※Omnesys

現地法人名	Omnesys Technologies Private Limited
日本語名称	オムニス・テクノロジーズ
所在地	インド バンガロール市
主な事業内容	証券業界向けソフトウェア開発 等

世界の金融ITサービス企業ランキング「FinTech100」で9位に

～4年連続でトップ10にランクイン～ (2013年11月7日)



NRIは、世界の金融ITサービス企業の上位100社ランキング「FinTech (フィンテック) 100」において、2013年も第9位に選ばれました。日本企業では、唯一のトップ10入りとなり、2010年から4年連続トップ10入りを果たしました。

NRIが提供する金融ITサービスの多くは、業界で広く利用されています。常に顧客の利便性を追求し、サービスの拡充をおこなっています。

また、NRIは、日本国内においていち早くISA (少額投資非課税制度) の調査研究を開始し、積極的に情報発信をおこなってきました。この活動は、2014年1月から導入されたNISA (日本版ISA) に対応したITサービス開発の礎となりました。一方、日本国外においては、NRI FT Indiaがシステム開発の拠点として、またNRI大連がBPO[※]サービス拠点として、それぞれ順調に業績を拡大しています。

今後も、グローバル金融市場において、顧客のビジネスに貢献してまいります。

※ BPO:

ビジネス・プロセス・アウトソーシングの略で、企業活動における業務プロセスの一部について、業務の企画・設計から実施までを一括して専門業者に外部委託すること。

シルバー人材センター会員にWebで情報を提供するクラウドサービス「Smile to Smile」を開始

～パソコン・スマートフォンでシニアの仕事探しが便利に～ (2013年11月12日)

NRI社会情報システム株式会社は、2013年8月から、シルバー人材センター(以下「センター」)に、会員向けサービス「Smile to Smile」(スマイル・トゥー・スマイル、以下「本サービス」)の提供を開始しました。2013年1月から提供しているサービス「エイジレス80アクティブ」*のオプションとして加わりました。

本サービスは、センターに登録した会員が、センターからのお知らせや募集中の就業情報などを、パソコンやスマートフォン、タブレット端末から閲覧できるサービスです。センター職員と会員との情報共有もスムーズになり、センター側の業務の効率化も見込まれています。

これからも活力ある社会の創造に向けて、高齢者と地域社会の接点づくりを一層支援してまいります。

※ エイジレス80アクティブ:

エイジレス80の機能を強化したクラウドサービスのこと。エイジレス80は、NRIが1985年からシルバー人材センターの業務支援システムとして提供しているもので、現在では全国の700団体(1,000拠点)以上で利用され、登録会員数は、合わせて約50万人に上る。

▲パソコン用画面

スマートフォン・タブレット
端末用画面▶

1. マンション共有部清掃業務	
案件番号	40161597-1
仕事の内容	マンション共有部清掃業務
就業場所	北1丁目
就業期間	2013年12月3日から2014年3月31日まで
就業曜日	火・木
就業時間帯	9:00～11:00
募集人数	2名

番号制度導入に関する実務情報の提供を開始

～企業側は早期に準備に着手すべき～ (2013年12月6日)

NRIは、2016年1月から「社会保障・税番号制度」(以下「番号制度」)が導入されるのにもない、企業が対応すべき事項について調査した結果などを、2013年12月からホームページで公開しています。その第一弾は、「給与厚生業務対応」について、想定される帳票や業務フローなどの実務情報です。

NRIは早くから番号制度に注目し、特に、民間企業の業務への影響について独自に調査研究をおこない、様々な企業や業界団体、国・自治体などとも議論を重ねてきました。今回発表したものは、こうした活動をもとに、内閣官房とも意見交換をおこない、取りまとめた成果の一部です。

NRIは今後も、新しい情報を追加・公表していく方針です。

詳しくは、下記のURLをご覧ください。

「番号制度 企業向け情報」:

 http://www.nri.com/jp/opinion/r_report/bangoseido/kigyo.html

「番号制度への取り組み」:

 http://www.nri.com/jp/opinion/r_report/bangoseido/index.html

「NRI学生小論文コンテスト 2013」の入賞者を決定

～約1,500名の大学生・留学生・高校生が“わくわく社会”を提言～ (2013年11月29日)



会長 藤沼より表彰状
を受け取る入賞者▶

NRIは、今年度も「NRI学生小論文コンテスト」*を開催しました。今回は「世界に向けて未来を提案しよう! あなたが考える“わくわく社会”を描いてください」を共通テーマとして、過去最多となる計1,518作品の応募がありました。

一次審査を経て選ばれた論文の中から、池上彰氏(ジャーナリスト・東京工業大学教授)と最相葉月氏(ノンフィクションライター)の2名を特別審査委員に迎えた厳正なる最終審査の結果、大賞3作品、優秀賞7作品、特別審査委員賞1作品を選出しました。高校生の部においては、木田夕菜さんが2年連続で大賞を受賞しました。同じ応募者が大賞を2度受賞することは、コンテスト始めて以来のことです。

大学生、留学生、高校生の各部ごとの大賞受賞者は右記の通りです。入賞論文は、NRIのホームページに公開予定です。

※ NRI学生小論文コンテスト:

NRIがCSR活動の重点テーマとして掲げる「次世代の社会を担う人づくり支援」の一環として、これからの社会を担う若者に、日本や世界の未来に目を向け、考える機会を提供することを目的として2006年から毎年開催しているコンテスト。

大賞受賞者と評価ポイント

大学生の部

国際社会で活躍するための近道— 「周学」システム

宇多 将太郎(うだ しょうたろう)さん
早稲田大学 政治経済学部 3年

●評価のポイント

日本の大学生について、一般的な留学の問題点を指摘し、1年間をかけて、世界中の大学を1ヵ月ごとに巡っていく「周学」という新しい留学システムを提案している。そのユニークな発想を高く評価した。海外数カ国の大学が協力し合えば、実現される可能性がある。多国籍企業がスポンサーとして参画する可能性も提示されていて、非常に斬新である。

留学生の部

積極的な教育投資のための教育税 導入と教育システムの改善

鄭 祥教(ちョン さんぎょ)さん(韓国出身)
大阪大学大学院 基礎工学研究科 修士2年

●評価のポイント

教育を充実させるための特定財源として、“教育税”を創設するという具体的な提案は、検討に値するアイデアと考えられ、高く評価したい。日本の事情についても、データを多用しながら非常によく分析しており、読ませる内容になっている。日本語力の高さもさることながら、論文としてのまとまり、完成度もきわめて高い。

高校生の部

だれもが国境を軽々と越えていく 社会 ～必修教科「グローバル・ コミュニケーション科」の創設～

木田 夕菜(きだ ゆうな)さん
鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校2年

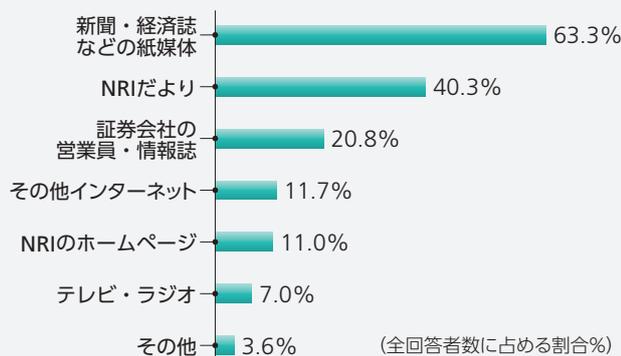
●評価のポイント

実体験を出発点として、今のメディアの問題点を指摘し、それを全世界的な視点へと発展させている。「グローバル・コミュニケーション科」の創設、「国際教科書」、「地球的世界史」などの具体的な提案には、「その手があったか!」という思いを持った。論文としての完成度も高く、未来を見据えた高校生らしいまっすぐな姿勢に、社会を変える力と希望を感じる。

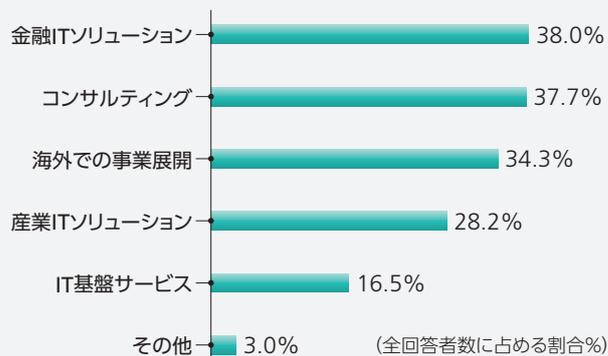
「NRIだより2013年Vol.3」では、株主の皆様にはアンケートのご協力をお願いしました。多くのご返信をいただき、心より御礼申し上げます。下記にご紹介した以外にも、業績や株価、未来創発フォーラムなどについて様々なご意見をいただきました。皆様のご期待にお応えできるよう、今後も努力してまいります。

(有効回答数：972名)

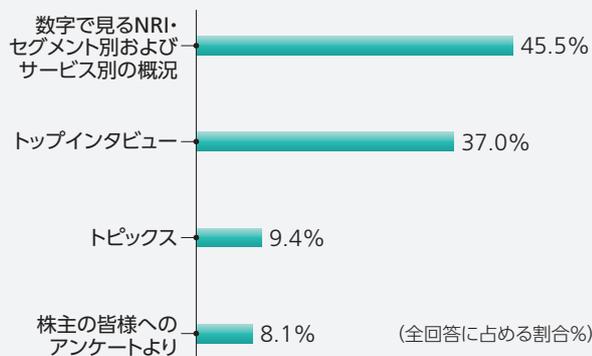
Q. 当社の情報を入手される主な媒体は何ですか。(複数回答可)



Q. 「NRIだより」で紹介してほしい事業テーマをお聞かせください。(複数回答可)



Q. 「NRIだより2013年Vol.3」で最も興味をもたれた記事はどれですか。



今回の「NRIだより2014年Vol.1」にもアンケートを同封いたしました。皆様の貴重なご意見をお聞きし、今後のIR活動の参考にさせていただきます。ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

2014年5月31日までにご返送いただいた方には、英文社名ロゴ入り「スマホポーチ」をお送りします。

なお、回答者多数の場合にはやむなく代替の品をお送りすることがございます。ご了承ください。



出版物のご紹介

『ITナビゲーター2014年版』

東洋経済新報社発行 (2013年12月12日)

NRIグループ社員が対外発表活動の一環として出版した本をご紹介します。NRIでは、今年度も2018年度までの国内を中心とする情報通信技術の主要4市場について、動向分析と規模の予測をおこないました。スマートフォンやタブレット端末の普及が進み、今後はそのうえで使われる、オンライン販売や決済などに代表されるプラットフォーム、電子書籍や音楽などのコンテンツ配信が、情報通信技術市場成長の重心となって伸びていくと見ています。

会社概要

会社名	株式会社野村総合研究所
英文社名	Nomura Research Institute, Ltd.
所在地	〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目6番5号 丸の内北口ビル
沿革	1965年 4月 株式会社野村総合研究所 (NRI) 設立 1966年 1月 株式会社野村電子計算センター (NCC) 設立 1988年 1月 両社が合併 2001年12月 東京証券取引所第一部に株式を上場
資本金	186億円
代表者	代表取締役社長 嶋本 正
従業員数	5,823名/NRIグループ7,738名 (2013年3月31日現在)

株主メモ

- 株券電子化にともない、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、下記特別口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
公告方法	電子公告（当社ホームページ http://www.nri.com/jp/ ） ただし、事故その他のやむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
（連絡先・照会先）	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711（通話料無料）